

よしきい

2021年1月17日



ヨシ原上空を舞うトビ

目次

- 公園の風景
 - トンビだって猛禽類・・・・・・・・・・1
 - ドングリ大好きマガモたち・・・・・・・・1
 - 下心あるのかな？・・・・・・・・・・1
- きらら浜 蜂蜜物語 ②・・・・・・・・2
- みんなのひろば
 - 鯛之福玉・・・・・・・・・・・・・2
- 活動紹介
 - 山口湾クロツラ報告・・・・・・・・・・3
 - ラムサール湿地めぐり・・・・・・・・・・3
 - 公園のリースは自然がいっぱい・・・・・3
 - きらら浜おみくじ・・・・・・・・・・・・・3

発行：「葦の会」機関紙チーム
事務局：〒754-1277 山口市阿知須 509-53
きらら浜自然観察公園内
電話 0836-66-2030 (FAX 66-2031)

「葦の会」はきらら浜自然観察公園を中心に、自然を知り・
親しみ・守る団体です。自然を楽しみながら、その素晴らしさ
を伝える活動をしています。ご一緒しませんか？

会員募集中！（高校生以上）

公園の風景

= トンビだって猛禽類 =

ピーヒョロロ〜と鳴いて羽をいっばいに広げ気持ちよさそうに空を舞うトンビ、正式にはトビ。英語ではブラックカイト(黒い凧)と呼ぶようですが、尾羽で巧みに舵を取り、まさに凧のように上昇気流に乗って大きく輪を描きながら上空へ舞い上がります。あんなふう空を飛べたらなあ！と思う人は多いのではないのでしょうか。



もう、しつこいなあ！

あまり狩りはしないで主に死んだ魚や動物を食べ、大きななりをして時にはカラスに追い回されたりしているので格下に見られがちですが、トビはワシやタカと同じ「タカ目タカ科」に属する、れっきとした猛禽類。実は自然界をきれいにするという立派な役目も持っています。



意外とダンディでしょ？

トビの名誉のために付け加えると、トビがカラスにやられているというよりは、食性が同じカラスが天敵であるトビを追い払おうとしたり、ちょっかいをかけていたりということのようです。でもトビは案外余裕です。見近にいて飛ぶ姿をすぐ間近で見られる猛禽類はトビだけです。頭上を飛ぶと羽の裏の美しさや尾羽の動かし方、脚の納め方などもバッチリ見せてくれますよ。

= ドングリ大好きマガモたち =

公園内にはシイやクヌギ、カシなど秋にドングリを実らせる木々が沢山あります。渡り鳥のカモで淡水池がにぎやかになる頃ドングリを求める水鳥で園路は賑わいます。特に来園者がいなくなり、猛禽類に襲われることのない夜に公園内をペタペタと闊歩しひたすらドングリを採餌します。鳥目で夜は見えないなんてとんでもない話、よく見えるそうです。特にひと冬 300 羽程飛来するマガモは食欲旺盛で、片端からたいらげるようで水際や園路に山ほど落ちていたドングリが 12 月初旬には一粒もみられなくなります。イベリコ豚同様、イベリコ真鴨の美味しい時期ですよ!?



園長による貴重なワンショット、朝日が木々の間に間から差し込む園路にドングリを探すマガモの一団が。見つけた瞬間は何十羽もいたのにカメラが間に合わず、大半がバタバタと飛び去ってしまった後だったそうです。

= 下心あるのかな? =

保護ケージにいる 2 羽のクロツラヘラサギもきさら浜へ来て丸 2 年、5 歳と 2 歳の雌鳥です。10 月頃より朝鮮半島から渡ってくるクロツラの数が増え始めます。昨年の 11 月には 31 羽を確認しています。この中の 1 羽、雄鳥であろうクロツラが足繁くと云うか羽繁く、ケージのそばに近付いて来るようになりました。どうやら去年来ていたのと同じ雄のようですが、ケージの内と外とでお互いの存在を確認しているようです。お目当てはどっちかな？ はてさて何としたものか、雌の 2 羽はしよせん籠の鳥。雄が夏をきさら浜で過ごせば間違いなし…?? 成就させる良策をどなたか提案して下さい。

きらら浜 蜂蜜物語 ②

冬真っ只中の今、きらら浜のミツバチ達は秋の終わりに集めたセイタカアワダチソウの蜜（人間にとっては美味しくない）を食べ、養蜂箱の中で巣の中心に集まり女王蜂を守りながら、ひたすら春を待っています。



pixta.jp - 66629509



養蜂箱の中で冬籠り

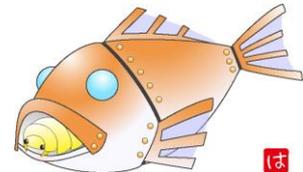
「ミツバチの歴史は人間の歴史」と言われるほどで、6000年も昔のスペインの洞窟壁画に蜂蜜を採取する人が描かれ、ギリシャ神話には養蜂の神も登場します。我が国では日本ミツバチと呼ばれる在来の野生種が江戸時代から飼われていましたが、利点はあるものの集める蜜の量が少なく、現在は西洋ミツバチが主流のようで、公園のハチたちもこの種です。

20,000匹以上もいるミツバチの巣は一匹の女王バチと、夏ごろに一割くらいが見られる雄バチと、残りの働きバチ(雌)から成り立っています。ミツバチの社会を支えているのは働きバチ。働きバチは巣を維持するために働き、女王バチの仕事は産卵のみ、雄バチは女王バチとの交尾のみが仕事で、交尾後にはすぐ死んでしまいます。女王バチは3~4年、働きバチは3~5か月(夏場は一か月)の命とのこと。数か月単位で生死が繰り返される群れを管理する養蜂家のご苦労も計り知れないものと思います。

つづく

みんなのひろば😊

鯛之福玉



山口県はとにかく魚が美味しい。しかもよくわからない種類もあって楽しい。

なかでも「連子鯛」は安くて旨い主婦の味方なうえ、“当たり”の確率が一番高い。その確認方法はとても簡単。口を開けてみて…コンニチワー!! つぶらな瞳でこっちを見ているヤツがいれば大当たり。それを見つけ次第、私は保存瓶にためることにしている。

大抵1鯛にコイツ1匹か2匹が“乗って”いる。潜水艇レンコダイ号でランデブーと決め込んでいたところを釣られてしまった…とか考えるとなんだか笑えてしまう。

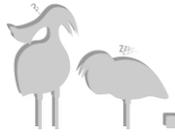
そんなキュートなコイツの名前は「タイノエ」、魚に寄生する節足動物で、とてもおめでたいやつなのだ。詳細を説明すると愛が溢れすぎてこの枠に収まりきれないので是非ググってみて欲しい。そして鯛の口を覗いてみて欲しい。その魅力に取り憑かれること請け合いですよ?

(Haruka)



活動紹介

= 山口湾クロツラ報告 =



12月半ば、鮮半島から続々と飛来するはずだったクロツラヘラサギが11羽の確認に終わりました。11月の調査時にいたのは31羽だったのに一体どこに行ってしまったのでしょうか。

= ラムサール湿地めぐり =

11月24-25日に有明海のラムサール条約湿地の施設(荒尾・東与賀・肥前鹿島)を見学に行きました。葦の会からは代表して2人の参加となりましたが、どこの施設も目新しく魅力的で、何より現地のボランティアさんの活気に圧倒されました。活動の参考となるものも多数あり、葦の会としても気合を入れ直した次第でした。この経験を糧として山口湾のラムサール登録に向けて盛り上げていきたいです。

= 公園のリースは自然がいっぱい =

昨年12月19日(土)に行われた葦の会主催のリース作り。午前、午後で付き添いの大人を含め計70名余りの参加がありましたが、できるだけ過密にならないように予めこちらで決めたテーブルに座ってもらいました。参加者は用意されているクズの蔓の輪の中から好きなものを自由に選び、様々な種類の緑の枝や葉、木の実などを使って思い思いに飾り付け、それぞれ個性的なリースを仕上げていきました。



帰り際に記入をお願いしたアンケートでは、「自然の材料がたくさん用意されているのがよかった」という感想を多数いただき、ひと月前から野山に分け入って少しずつ材料を集めてきた会員たちの苦労はどこかに吹き飛んでいきました。(^^♪

<俳句教室優秀作>

・小春日や煌めく池が星の様 幸浩	・湖を蹴る助走のしぶき霜日和 道子
・ちらほらとよし原の中冬めじろ 清子	

11月 12月

= きらら浜おみくじ =

新年の2日、3日と公園は臨時開園しています。そこで！今年初めて2日と3日の2日間、「きらら浜おみくじ」を企画し、窓口横に設置しました。内容は引いた人だけのお楽しみ。初の試みなので準備も試行錯誤でした。来年からも恒例イベントとして実施していきたいと思っています。



編集後記

気が付くともう新年。どこを向いてもコロナコロナで模索しながらの一年、あっという間でした。今年も〜っと楽しいことがぎゅうぎゅうの年になりますようし!! (Haruka)